

県・福井大・原子力機構が提案した超小型光制御デバイスの研究が
文部科学省の大型研究事業に採択

このたび、県・福井大学・日本原子力研究開発機構が共同提案した超小型光制御デバイスに関する研究が、文部科学省の大型の提案公募型研究事業である平成29年度「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」に採択されました。

文部科学省「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」は、リスクは高くとも、支援（＝投資）に見合う社会的なインパクトが狙える挑戦的プロジェクトを支援する事業であり、地域が競争力をもつコア技術を基に、新しい地方創生モデルを実現することを目的としています。

県では、県の経済戦略「福井経済新戦略」(H27.4)に基づいて設立した産学官金連携による「ふくいオープンイノベーション推進機構」において、ウェアラブル製品の開発を重点分野の一つとして位置付けて技術革新を推進してきました。

本事業では、福井大学独自の革新的な光制御技術、ふくいが競争力をもつ眼鏡産業の技術およびレーザ加工技術のコア技術を基に、超小型光制御デバイスの研究を行います。

例えば、弱視の人の視覚を補助する「ロービジョンケア眼鏡」、腕などの人体の内部の血管が投影できる「医療 MR ビジョン眼鏡」、自動車の運転時のカーナビ情報が投影できる「車載用 MR ビジョン眼鏡」、マニュアルの投影ができる「産業用 MR ビジョン眼鏡」、空間の放射線量を色覚化する「原子力産業用 MR ビジョン」などの革新的眼鏡型ウェアラブル端末に展開することで、将来的に社会的インパクトが高い新たな光産業「革新的オプト産業」の創出を進めます。

※ MR: Mixed Reality (複合現実: 現実のモノと仮想的なモノが複合した空間)

【事業名】 文部科学省 平成29年度「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」

【申請内容】 「ワンチップ光制御デバイスによる革新的オプト産業の創出」

【実施主体】 福井県、国立大学法人福井大学、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

【事業プロデューサー】

小杉裕昭(福井大学 客員教授、元 パナソニック)

【副事業プロデューサー】

米沢 晋(福井大学 産学官連携本部長)

山口隆司(日本原子力研究開発機構 敦賀事業本部 敦賀連携推進センター長)

強力真一(福井県産業労働部 技幹・工業技術センター所長)

【中心研究者】 勝山俊夫(福井大学 客員教授)

【実施期間】 平成29年度～33年度

【支援規模】 年間1～1.4億円、期間5年間